

# 呉錦堂を語る会通信

NO.27 Apr. 2016

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34  
橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」  
Tel. 078-911-1671  
編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員  
発行日 2016.4.15



## 「続・横山栄吉考」『移情閣移築工事報告書』に記載された“横山某”は横山栄吉

移情閣の設計者、建築者として“横山”の名が出てくるのは、『兵庫県指定重要有形文化財 移情閣移築修理工事報告書』（兵庫県 2001年1月）と『兵庫県立舞子公園百年史』（財団法人兵庫県園芸・公園協会 2001年3月）です。後者については、既に第23号で取り上げました。本第27号では前者（見出しを含め、以下、『移情閣移築工事報告書』と略します）についてみていきます。（編集委員 橋 雄三）

### 《1. 『移情閣移築工事報告書』の記述》

移情閣は、明石海峡大橋の建設に伴い、約200メートル南西へ移築されました。復原開館したのは2000年4月です。2001年1月、兵庫県から、本文222頁、図版83頁、図面29頁に及ぶ報告書が発行されています。ここでは、この工事の報告書、『移情閣移築工事報告書』に基づいて記述します。

以下、同著、第3章建築物の概要、第1節文化財指定、2. 指定説明からの引用です。

建設年代は、棟札から大正4年5月12日に上棟したことがわかり、建築は横山某という。移情閣資料(注4)に

「呉錦堂邸宅

舞子邸宅概要

大正六年春 舞子邸落成

当時	全坪数	七二一坪余り
	建坪	二〇四坪六七
	建物延坪	二九二坪七六
	庭園坪	五一六坪余り

昭和五年（落成時より十三年目）神明国道改修のため、邸宅一一一坪余り削除せられ、ために建物位置を変更せり、又目下の建物は竹中工務店の模様変へしたるものなり

現在	建坪	一一〇坪四六
	建物延坪	二二六坪七六
		一階 三二坪四〇
	八角堂建物	二階 三〇坪二五
		三階 三〇坪二五
	建築者	大工 横山 某
		神戸の人（詳細不明）」

とあり、（以下略）

（注4）坂本勝比古（神戸芸術工科大学名誉教授）

1960年8月21日調査時に館にあったものを筆写 出所不明

### 《2. 坂本勝比古氏が「横山栄吉」とされる根拠》

上掲引用文に記載の「横山某」を「横山栄吉」と判断されたのは坂本勝比古氏です。これ以上のことは、坂本氏ご本人に何うしかありません。次にあげたのは坂本氏とのやりとりです。

**橋：**「注4 坂本勝比古（神戸芸術工科大学名誉教授）

1960年8月21日調査時に館にあったものを筆写 出所不明」とありますが、坂本先生は、1960年当時、どんな研究・仕事をされていたのですか。

**坂本：**当時、私は神戸市に勤めていて、建造物の営繕の仕事を担当しておりました。その関係で、移情閣も調査しました。

**橋：**同筆写記録では、「建築者 大工 横山 某 神戸の人（詳細不明）」となっていて、姓名の名がありませんが、横山栄吉と判断された根拠は何ですか。

**坂本：**当時、私は、北野町界隈で、異人館建築にかかわった大工、職人から聞き取り調査を行っていました。そんな聞き取りの中に横山栄吉の名前、住い、手掛けた仕事などの情報がありました。また、『ジャパン・ディレクトリー』という、英文の在日外国人・機関名鑑の中に、神戸外国人居留地の地番で、建築家ハンセルの事務所の記載があり、製図者として Yokoyama Eikichiの名があるのを見つけました。ハンセルの下で、製図者、棟梁として仕事をしたのです。ハンセルは異人館ほか、京阪神間の多くの建築を手がけたイギリス人建築家です。このようなことから、「横山某」を「横山栄吉」と判断しました。

■坂本勝比古氏の話の『ジャパン・ディレクトリー』に、直接、当たった結果を本第27号3頁下に報告いたします。



復原後の移情閣「移情閣移築工事報告書」より

# 大人物小故事 (増補)

我的外公吳錦堂

曹愛徳著

『大人物小故事』は、2013年8月発行の『通信』第9号以降、折にふれ、一話、また一話と掲載し、合計20話、15年10月発行の第23号を以って終了いたしました。その後、改訂増補版が出版され、新たに2話、追加されました。そのうちの「育才」をここに掲載いたします。この作品は、「錦堂学校」の推薦を受け、費用は吳錦堂持ちで日本へ留学した二人の学生の日本での生活と帰国後を描いています。お楽しみください。なお、中国語文中の画像は原書にあるもので、訳文中の画像は編集委員の判断で入れたものです。右の画像は改訂増補版の表紙です。（編集委員 橋雄三）



## 育 才

有一天，浙江省宁波市慈溪锦堂学校的校长接到我外公吴锦堂从日本发来的电报，内容是请校方推荐两名优秀学生到日本留学，而且指定学“农科”，还说：“一切费用由我承担。”外公出生农村，是个地道的农民。后来东渡日本经商致富，但他富而不忘本，深知要使国家富强，农民生活水平提高，必须要改变农村的落后面貌，而培养农民先进科学人才是他的宗旨。

那时锦堂学校学习成绩优异的学生数不胜数。经过反复酝酿和综合考核，包容和童玉民两位男生金榜题名，学校为他俩召开了隆重的欢送大会。在一片锣鼓和欢笑声中，两位学生胸戴大红花，兴高采烈地登上主席台，向大家表决心，一定好好学习，决不辜负学校和外公的期望。全校师生怀着激动的心情，并投出了和蔼羡慕的目光。

两名莘莘学子肩负着学校的重任，离开家乡，踏上了日本的国土。外公派人到轮船码头把他们接到自己的家中。为他们安排了住宿，并设便宴欢迎他们，和他们亲切交谈。当时能从农村到日本留学，又包吃包住包学费，还请专职老师上门专修日语和英语，这是件“天方夜谭”！实际上天底下真有这样的大好人，这两个学生太幸运了，太使人羡慕了。

## 育 才

ある日、浙江省寧波市慈溪錦堂学校の校長は、私の祖父吳錦堂の日本からの電報を受け取りました。内容は、優秀な学生2名の日本留学について学校側の推薦を要請するもので、“農科”を学ぶことを指定し、また、“一切の費用は私が持つ”というものでした。祖父は、農村生まれの生粋の農民でした。後に、日本へ渡り、商売をし、財を成しましたが、祖父は金持ちになっても本（もと）を忘れず、国を富強にし、農民の生活水準を高めるためには農村の遅れた状態を改変しなければならないと痛感し、進んだ科学知識を持った農民を育成することを使命としました。

当時、錦堂学校には学業成績優秀な学生が数え切れないほどいました。選抜に関しての慎重な検討と総合審査を経て、包容と童玉民という二人の男子学生が難関を突破しました。学校は彼ら二人に厳かな歓送会を開きました。銅鑼や太鼓と明るい笑い声の中、二人の学生は胸に大きな赤い花を付け、有頂天でステージに上がり、必ず、よく学習し、決して、学校と祖父の期待に背きませんと、みんなに決意表明をしました。全校の教師・学生は、気持ちを高ぶらせ、うらやましい気持ちも交え、一緒に喜びました。

二人は、身に大きな責任と期待を帯び、故郷を離れ、日本の土を踏みました。祖父は、波止場へ人を差し向け、彼らを自分の家へ案内しました。彼らに宿舎を手配し、その上、簡単な宴会を設けて彼らを歓迎し、彼らと親しく言葉を交わしました。当時、農村から日本へ留学でき、また、食住学費を保障され、更に、専任の家庭教師が付いて日本語と英語を教えてくれる、これは、まことに“千夜一夜物語”です。実際、世の中、このような善人がいるもので、この二人の学生は本当に幸運で、人をうらやましがらせました。



童玉民氏 CCTV《難忘錦堂》より

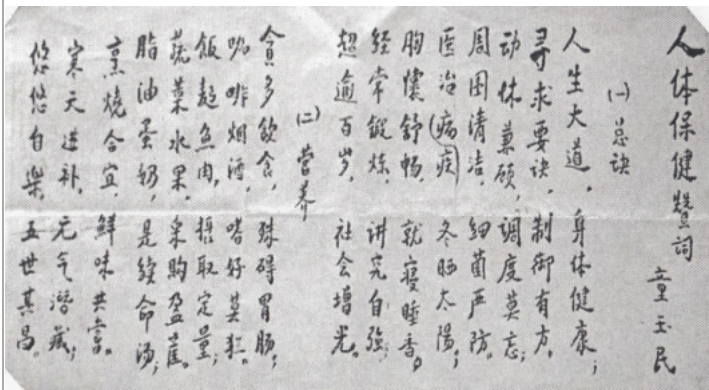


（「育 才」 前頁より続く）

打好了语言基础，第二年两名学生才正式考进日本一流的“岡山农业学校”该校是全封闭的寄宿学校，校规严厉，学校没有假期，学生不可擅自离校，加上学科多，上课，阅读，实验等学习任务繁重，学校离神戸市区又远，两名学生学习期间都不能回家。但外公在百忙中亲自写信给他们，要求他们按月汇报学习情况，常问他们带去的钱够不够用？衣服缺不缺，身体情况如何？就像对待自己的孩子一样无微不至的关心他们，使两名学生的家长感激不尽，不断督促自己的孩子要发愤学习。童玉民说：“那时包容比我大三岁，他不仅能表达，又善书写，所以我回信都是由他执笔写的。”

数年后，他俩都以出色成绩毕业，学成回国，没有辜负学校及外公的期望，都成为农业研究方面的人才。童玉民曾担任浙江某农业学校校长，晚年在上海文史馆工作，曾与我母亲有书信往来，是个懂感恩的人，来信中念念不忘外公的恩惠。童玉民活到102岁，是个国家有用之才，也是个健康长寿的老人。

外公的胸怀和情怀，激励我们奋进，成为后人学习的榜样。



言葉の基礎が備わり、二年目、二人の学生はやっと正式に日本で一流の“岡山農業学校”の試験に合格しました。この学校は全寮制で、校則は厳しく、休暇はなく、学生は勝手に学校を離れられず、加えて科目が多く、授業、講読、実験など学習負担が重く、学校は神戸市街地から遠く、二人の学生は、学期中、家に帰ることができませんでした。ところが、祖父は仕事繁多の中、自ら彼らに手紙を書き、月ごとに学習状況を報告するように求め、お金は足りているか、衣服は不足していないか、体に悪いところはないか訊ね、至れり尽くせり、あたかも、その気遣いはわが子に対するようで、二人の学生の保護者を感激させ、子どもが発奮学習するよう絶えずせき立てました。童玉民は、「当時、包容は私より三歳年上で、彼は話も文章も上手で、私の返事はすべて彼が書いてくれました」と言いました。

数年後、彼ら二人は共にすばらしい成績で卒業し、学業成って帰国し、学校及び祖父の期待に背かず、共に、農業研究方面の人材となりました。童玉民はかつて、浙江のある農業学校の校長を務め、晩年は上海文史館の仕事をし、私の母と親しく手紙のやりとりをしましたが、感恩の人で、手紙の中、祖父の恩を忘れることはありませんでした。童玉民は102歳まで長生きし、国家有用の人材で、健康長寿の老人でありました。

祖父の胸中の思い、心情は、私たちを奮い立たせ、後世の人の見習うべき手本となりました。

「続・横山栄吉考」 (1ページから続く)

《「幕末明治在日外国人・機関名鑑」に見える横山栄吉》

立脇和夫監修「幕末明治在日外国人・機関名鑑：Japan directory」（ゆまに書房 1996年）は、幕末から明治期にかけて刊行された「Japan directory」の復刻で48巻からなっています。同著は、東京、横浜、神戸、大阪、函館ほか、居留地の諸機関の所在地やメンバーの氏名、居住する外国人の人名、住所、職業を記載した名簿です。

建築家 Alexander Nelson Hansell (1857-1940) は、上述書からみますと、大阪から神戸に来たのは1891年で、居留地の85番地に、翌1892年から上述書の最

20-B, Harima-machi.  
ALEX. N. HANSELL, F.R.I.B.A.  
Architect and Surveyor.  
A. N. Hansell  
Yokoyama Eikichi, Japanese Draughtsman

終掲載年の1912年までは居留地20-B（1898年と99年は居留地20）に事務所を構えています。そのうちの1895年から1906年の12年間、同事務所のJapanese Draughtsman としてYokoyama Eikichiの名前が見えます。Hansell 以外で名前が出ているのは、この間、Yokoyama Eikichiだけです。（編集委員 橋 雄三）

上述書1903年版部分



## 同じ時期、同じ工務店が手掛けた「籠池通呉錦堂邸」と「六甲山ホテル」

神戸新聞に、昨年(2015)11月30日と、今年1月23日、六甲山ホテル旧館の閉館に関する記事が載りました。筆者(橘)は、六甲山ホテルの旧館について強い関心を持っています。籠池通りにありました呉錦堂邸について調べた際、建築を請け負った株式会社竹中工務店の『店報』「祭式事」に、「昭和3年10月22日 神戸呉錦堂氏邸地鎮祭」と並んで、「11月5日 六甲山ホテル地鎮祭」の記載があり、六甲山ホテルの名前が記憶に残りました。六甲山ホテルの開業は昭和4年7月10で、呉錦堂邸の落成は昭和5年6月30日です。

六甲山ホテルは古塚正治の設計です。では、呉錦堂邸はと思い、竹中工務店に問い合わせたのですが、「呉錦堂邸に関し、当時の記

録に個人名は出ておりません」との返事でした。同じ工務店が同じ時期に手掛けた、共に洋風建築で、言ってみれば兄弟のような存在です。

神戸新聞の記事では、六甲山ホテル旧館について、「戦前に大阪-神戸間で花開いた文化「阪神間モダニズム」を代表する建物の一つとして知られる…」とあります。現存して居れば、同じことが呉錦堂邸についても言えるでしょう。ですが、残念なことに、終戦の年、6月5日の神戸大空襲で全焼してしまいます。呉錦堂邸は15年でなくなり、それから70年たつて、六甲山ホテルはこのたび営業を終了したということです。感慨深いものがあります。

以下、画像を含め、竹中工務店提供の呉錦堂邸データです。



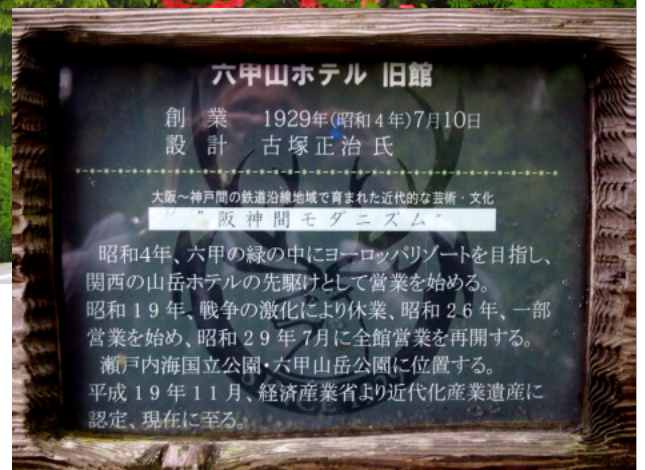
1. 建物名称：呉錦堂邸(呉啓藩邸)
  2. 建築主・所有者：呉錦堂
  3. 建築地：神戸市籠池通5-11
  4. 工期：昭和3年10月22日～昭和5年6月30日
  5. 構造：鉄筋コンクリート造、木造、3階建
  6. 延床面積：1045㎡
- (編集委員 橘雄三)

### 六甲山ホテル旧館（阪神間モダニズムを代表する建物の一つ）86年の歴史に幕

下の写真、正面は玄関を中心に左右対称。左翼（向かって右）は、木立に隠れて見えない。



ホテル裏（北）側



玄関に取り付けられた説明板

玄関の色ガラスと玄関灯

写真はいずれも編集委員撮影（2016年）